

平成28年度 学校評価

視点	4年間の目標 (平成28年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (月 日実施)	総合評価(月 日実施)	
			具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
1 教育課程 学習指導	・自立と社会参加をめざし、キャリア教育の視点から小学部から高等部までの教育内容を見直し、系統性のある教育課程を再編成し、授業改善に取り組む。	・教科等の授業で取り上げている学習内容と目標を各学部において整理する。	・授業の略案収集を行い、各学部における教育課程検討会議において、系統だった学習内容と目標の設定を行う。その際、学習指導要領の各教科における授業構成と段階に準拠した整理を行う。	・学習内容系列表の作成に向けた前段階として、各学部における系統だった学習内容・目標の設定に取り組めたか。					
2 (幼児・児童・) 生徒指導・支援	・児童・生徒一人ひとりの人権を尊重し、個性に応じた支援・指導を組織的に行う。	・児童・生徒の障害特性を理解し、人権を尊重した適切で丁寧な支援・指導を行う。	・日常の児童・生徒への丁寧な関わりの意識づけとして「さん付け呼称」など取り組みのスタンダードを作成する。 ・障害特性の理解を深めるための研修会を実施し、障害の状態や発達の段階に応じた適切な指導のあり方を学ぶ機会を多く設ける。	・場面を切り分けることなく、「さん付け呼称」が行えたか。 ・丁寧な関わりのスタンダードが作成できたか。 ・年間で立てた研修会を計画どおりに実施し、参加率を増やしたか。					
3 進路指導・支援	・将来、社会で豊かに生きることをめざし、一人ひとりのニーズに応じた進路指導・支援を行う。	・将来の生活を見据え、生活、進路学習、作業学習等、学習内容を見直す。	・小学部において、将来の社会生活を見据え、自分の力でできたということを実感できる主体的な学びを取り入れる。 ・中学部、高等部において、将来の働く生活や家庭生活を見据え、役割を意識できる学習活動を進路学習に取り入れる。	・学習場面における作業的な活動の機会を多く設け、獲得したスキルが家庭生活でも発揮できるための支援の方策(手順書、環境設定)を開発できたか。					

			<ul style="list-style-type: none"> ・保護者へ進路情報の提供を積極的に行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・進路説明会や進路先の見学会を小学部から高等部まで実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・進路説明会と進路先見学会を小学部から高等部までを対象に実施できたか。 					
4	地域等との協働	<ul style="list-style-type: none"> ・障害のある子どもがいきいきと暮らすことができるよう、家庭・地域・関係機関との連携を進める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭、地域、関係機関と連携した研修・イベント等を開催し、特別支援教育の理解を進めるとともに、連携を深めてセンター的機能の充実を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭、地域、関係機関と連携したイベントを開催。 ・地域の方や小・中・高等学校の職員が参加できる研修を行い、障害のある子どもの理解を深める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域と連携したイベントを通して、地域が主催するイベントにおいて、障害のある子どもが安心して参加できる環境や支援の方策を伝えることができたか。 ・各回 10 名以上の外部参加者があったか。 					
5	学校管理 学校運営	<ul style="list-style-type: none"> ・すべての職員が、教育環境の変化や課題に機動的に対応できる学校組織作りを進める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・タブレット端末研究のプロジェクトチームを立ち上げ、障害をサポートする支援ツールとして活用する研究を推進する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・iPad 等 ICT 機器を活用した教材・教具の収集、開発を行う。 ・発達の段階に応じた ICT 機器の活用体系の検討を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ICT 機器を支援ツールとして活用した研究授業が実施できたか。 ・ICT 機器活用のための研修が行えたか。 ・ICT 機器の保守、管理が適切に行えたか。 					